

明治三十七年一月十日

○東京法学院大学記事

○第三回英語茶話会 旧臘十二日午後一時より同会を第四講堂に開き廣井講師例に依り開会の弁を述べ次て学生粟野、坂東、赤松、岩尾四氏の趣味ある英語對話ありて傍聴者を欲はしめ米国人テーロル氏は法律と道德の關係に付て一場の講演あり右終りて氏か該講演に關し來会者の質議に應すべきことを宣言するや学生諸君は哲学、倫理等の諸問題を提出して論難攻撃するありテーロル氏は熱心にして且つ懇切に一一解説を与へ廣井講師も亦両者の間に立て弁明の勞を取り相方の間に誤解なからしめんことを勉められ一時は論戰の花を咲かしめたるは此会ありて以來の快事たり夫れより一同「君か代」を唱ひ互に三十六年最終の茶話会を最も壮快に了りたるを祝して散会したるは午後五時なりし因に次会は本月十七日(第三日曜日)午後一時より開催の筈なり

○競争論文 競争論文の方法は兼て学生の研究範圍を示し置き日を期して此範圍より一問題を選定し論文を起草せしめて之を評隲するにありて去月上旬判定者を谷野、泉二の両講師に託し刑法中数人共犯を研究範圍と定め同十七日正午を期して論題

を提出することと為したり当日は競争者一同を第三講堂に会せしめ谷野講師の選定に係る「正犯及び従犯の区別に関する標準に付ての学説の概要及び断定」なる一題を掲出して該論文を徴し両師審査の結果左の五氏優勝者と判定せられ各自褒賞を授与したり

柚木周平（一等） 木村治朗（二等） 小浦義一（三等）

市野英次（四等） 妹尾繁雄（五等）